

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2025」

招聘 長風文教基金会

テーマ：地方創生

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2024」の一環として、11月7日から11月13日まで、台湾の若手社会人8名が「地方創生」をテーマとし、山梨県・東京都を訪問しました。山梨県では小菅村にて、過疎化が進む小菅村で全国的にも注目を集める地方創生の取組についての視察や意見交換を実施し、富士河口湖町のツーリストベース河口湖では山梨県が抱える観光課題（消費額の低さ・富士北麓への一極集中・二次交通不足についての講義と和服着付け体験などの日本文化体験を行いました。

。都内では内閣府地方創生推進局で我が国の地方創生についての取組のレクチャーや自由民主党青年局で座談会を行ないました。外務省では外交政策について講義を受けました。早稲田大学では、意見交換に加え、セミナー（大学が取り組む地方創生について）の講義を受けました。

台湾に戻った後は、今回の経験を発信し、参加した団員が今後日台関係の架け橋になることを期待します。

【開催概要】

実施日：2025年12月7日（日）～12月13日（土）

参加者：「長風文教基金会」若手社会人8名／団長1名・スタッフ2名 11名

訪問箇所：

公益財団法人日本台湾交流協会東京本部／自由民主党青年局／内閣府／外務省／内閣府小菅村／（公社）やまなし観光推進機構／ツーリストベース河口湖
早稲田大学/株式会社JTB

2. 日程

日程	内容
12/07（日）	入国
12/08（月）	オリエンテーション 【表敬訪問】日本台湾交流協会東京本部 【講義】早稲田大学社会科学部・国際部
12/09（火）	【講義・視察】小菅村

12/10 (水)	【講義】(公社)やまなし観光推進機構 【講義・視察】ツーリストベース河口湖
12/11 (木)	【講義】内閣府地方創生事務局 【視察】銀座付近
12/12 (金)	【講義】株式会社JTB 地域交流チーム 【成果報告会】日本台湾交流協会東京本部 【表敬訪問】自民党青年局 【講義】外務省
12/13 (土)	出国

3. プログラム記録写真



12月8日【表敬訪問】
日本台湾交流協会東京本部



12月8日【講義】
早稲田大学



12月9日【講義・視察】
小菅村



12月9日【講義・視察】
小菅村



12月10日【講義】
公益社団法人やまなし観光推進機構



12月10日【講義・視察】
ツーリストベース河口湖



12月10日【日本文化体験】
ツーリストベース河口湖



12月11日【講義】
内閣府地方創生推進事務局



12月12日【企業訪問】
株式会社 JTB 地域交流チーム



12月12日【表敬訪問】
自民党青年局

	
<p>12月12日【成果報告会】 日本台湾交流協会東京本部</p>	<p>12月12日【表敬訪問】 外務省</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆社会人

今回の日本視察を通じて、日本が高齢化と人口減少という課題に対して、とても前向きに取り組んでいることを実感しました。国は「地方創生 2.0」を掲げるだけでなく、毎年多額の交付金を地方に配分し、交通改善や産業振興、若者の地元回帰などを後押ししています。これにより、地方が自ら創意工夫した取り組みを進められる環境が整っていると感じました。

特に印象に残ったのは、農村交通への AI などのスマート技術の導入です。需要予測やスマート配車、相乗りシステムの活用により、高齢者の移動の不便さや地域の孤立を減らし、生活の利便性向上につなげています。

政府の支援、地域の意志、そしてテクノロジーがうまく結びつくことで、日本各地が地域の持続力（レジリエンス）を高めている姿は非常に参考になりました。台湾の農村にも同じ可能性があり、政策と技術を組み合わせれば、台湾独自の「ローカル創生」の道を切り開けると強く感じています。

◆社会人

今回の小菅村の訪問で最も印象に残ったのは、「二分之一村民（二分之一村民）」というコンセプトを、巧みに“ビジネス資産”へと転換している点でした。これは本質的には、緻密に設計された「顧客の継続的な関係づくり（リテンション）」の仕組みであり、私たちが現在推進している「海島風ビール」にとって非常に重要な示唆を与えてくれます。

これまでの私たちのマーケティングは、単発の購買獲得に偏りがちでした。

しかし小菅村の事例は、「いかにお客さまを継続的にファンとしてつなぎ止めるか」が本当の勝負だと教えてくれます。観光客を“一度きりの消費者”として扱うのではなく、本島へ戻った後も継続して澎湖を思い出してもらえる、さらには“このビールのために再訪したくなる”ような体験設計が必要だと感じました。

また、物流事業者として強く心を打たれたのが、日本社会全体に浸透している「整然とした物流運営」です。配送車両の手入れ、貨物の整理整頓、作業の規律—そのすべてが高いレベルで統一され、効率と美しさが共存していました。私たちの物流会社にとっても、大

いに参考にすべき点です。

◆社会人

今回の日本視察では、学術機関、中央政府、地方自治体、企業を幅広く訪問し、日本の地方創生が「理念・制度・実践」の三層を一体として機能させていることを確認いたしました。早稲田大学や台日交流協会では人口構造や地域資本、国際連携といったマクロ視点が整理され、内閣府では長期戦略、データ活用、制度設計を通じて中央が地方の方向性を効果的に支えている実態を把握できました。

小菅村では、住民参加や会員制度、地域資源の統合による「小規模でも持続可能な地域経営」の実践を確認し、企業・DMO と連携した観光産業の構築については、民間、山梨県観光推進機構、河口湖周辺の組織との交流を通じて、コンテンツ、ブランド、組織体制の連動が産業の持続性を高めていることが明らかになりました。

総じて、日本の地方創生の強みは、明確な役割分担、長期的な視野、地域に根ざした信頼関係にあり、これらは台湾における地域政策・産業振興を検討するうえで非常に有益な示唆となるものです。

5. 受け入れ側 対応（抜粋）

◆公益財団法人日本台湾交流協会東京本部 表敬訪問

理事長・総務部長と座談会

◆座談会 青年局長 衆議院議員

青年自民党本部自民党青年局意見交換会

◆表敬訪問 外務省

◆早稲田大学 社会学部・国際部

議題1：フィールドワークプロジェクト、地域づくり支援

主な質問内容：

- ・ 地方創生における補助金配分について、集中投資と分散投資それぞれのメリット・デメリット。台湾にはどちらの方式が適しているのか。
- ・ 「限られた資源は、まず強みを持つ地域に集中投資すべきではないか」という意見も出た。
- ・ 日本における各年齢層の地方創生に対する考え方や、賛成・反対それぞれの意見の傾向、また反対意見に対してどのように理解を得ていくのか。
- ・ 台湾では「大学の社会的責任（USR）」の観点から、大学が地方創生に参加し、地方の課題解決に取り組んだ成果を大学に持ち帰り、新たなカリキュラム設計につなげている点について。

◆小菅村 源流振興課

<講義・視察>

古民家を改修して整備された宿泊施設の景観や、地元食材を活用した食事を満喫した。また、村が抱える人手不足の現状について説明を受けたことを踏まえ、食事の配膳などを団員が自ら行う場面も見られ、地域の実情を体感する機会となった。フォレストアドベンチャー事業やドローン活用（物流等）に関する説明を受け、ドローンのシミュレーション飛行も見学した。物産店の視察では、村民による手作り商品を購入。団員からは、行政職員による説明に加え、小菅村に関心を持つ「二地域居住者（関係人口）」や、実際に移住した住民、ならびに地元住民本人から直接話を聞く機会があれば、より多角的な理解につながったのではないかと、との意見が寄せられた。

◆山梨県観光推進機構

<講義>

DMO（観光地域づくり法人）と MICE 推進における業務分担および役割整理、ならびにマーケティング手法について

◆ツーリストベース河口湖

<講義> 甲斐富士山ロード構想について

<意見交換> 訪日旅行客の誘致方法について

団員からは、観光列車の導入駅前観光案内所との連携体制の整備、ツアー販売に加え、散策マップなどの回遊促進ツールを整備してはどうかとの提案があった。

<日本文化体験>

着物着付け体験・篆刻体験

6. 参加者の対外発信

 <p>Liked by gao_a_hua_0220 and others snakemissyou 回到自己的專業 這趟旅程我一直忍不住關注的還是植物</p> <p>不論是庭院、公園、機場的植物配置 因為課程在12月中滿滿的聖誕裝飾 那種強烈的四季感與節日氛圍 都和台灣不一樣！</p> <p>回來就想要如何把這樣的感受 放進未來的課程與創作裡</p> <p>我想這些 也許你可能會不特別留意 但我可以用自己喜歡、也感到開心的方式分享 讓更多人感受植物與生活的連結</p> <p>這趟旅程中最喜歡的人事物 以及團員之間的交流 讓我有了更多自我對話的思考 也讓我再次確認自己的方向</p> <p>想把自然與植物帶進更多人的生命裡 在體驗中、試著慢慢感受自然與生活</p>	 <p>Liked by diannavenus and others snakemissyou 實際走訪 發現日本與我想像的蠻不一樣的</p> <p>這次參訪主要在東京都與山梨縣 走訪中央機關、學校、地方村落不同單位 每天從早到晚、行程緊湊到像高三生的課表</p> <p>因為去的地方有限 當然不能代表整個日本 卻深深地感受到秩序、整齊、禮貌 同時、也感受到其中的整潔與保守 這次看似對立又相似的特質 使我每天的感受體驗都又多又滿</p> <p>反而讓我更直觀地看見—— 台灣對多元族群的包容與接納其實很珍貴 也突然覺得、台灣地方創生也蠻不錯的 不同的國家面臨的情況也有所不同 實在很難最初想像的憤慨與學習 但不得不說、不論哪一個國家的</p>
---	---

7. 報告会でのアクション・プラン発表（抜粋）

①

日本・小菅村の「1/2 村民（関係人口）」の概念を参考に、澎湖でも観光客を長期的な関係性を持つ“ファン”へ転換する取り組みを進めます。特に「五感体験」を活用し、旅行後も澎湖を想起させる記憶点を強化することを狙います。実施期間は即日から来年4月の「澎湖国際海上花火節」開幕前までとし、オンラインと現地を連動させた施策を展開します。オンラインでは Instagram・Threads を中心に、味やパッケージに関する投票投稿を少なくとも3件発信し、50件以上の参加を目標にします。収集したデータはAI分析により「関係人口」の抽出に活用し、「海島風＝澎湖の定番」というブランド認知を強化します。オフラインでは、澎湖空港や協力店（酒場・飲食店・宿泊施設）で五感体験型の「瘋啤パスポート」を実施します。視覚・聴覚では限定フィルターや効果音を用いた打刻体験を、味覚・嗅覚では10～20店とのペアリング企画を提供します。さらに触覚体験として集章企画を設け、特典交換を通じて島内の周遊消費を促進し、来訪者を「1/2 村民」へ段階的に転換します。

②

日本のサービス文化は儀式性と細部への配慮が徹底されており、地方創生における価値創出の重要な示唆となりました。

現場の職人精神や自主的な品質維持は、在地パートナー育成において参考になる要素です。また、人材の階層化や関係人口の設計により、観光客を長期的な地域の担い手に転換する仕組みが明確でした。

日本はインバウンドと地方創生を統合し、国際基準の品質と多様な収益モデルで事業の強靱性を高めています。

帰国後は、サービス標準の向上、関係人口の資産化、そして専門性の再定義を重点的に共有していきたいと考えています。

③

武陵部落の魅力を可視化し、広く共感を生むブランドづくりを目指します。

短中期では、ブランドストーリーの構築、公式サイト制作、部落資料の収集と整理を進めます。中長期では、部落の体験型ツアーを商品化し、オンライン上に上架します。

あわせて、地域資源を活かしたブランドの継続的運営体制を整備します。

最終的には、武陵部落が長期的に成長できる持続可能なブランド基盤を確立します。

④

今後3か月間、同行メンバーとチームを組み、共同でアクションプランを進めていきます。

初期段階では、学んだ内容をもとにした「ミニ講座」と「濃油卷（作品・展示）」の形で成果を整理します。

活動の発表場所は宜蘭米廠を予定しており、地域住民や来訪者に向けて内容を公開します。この取り組みを通じて、学習成果の可視化と、武陵部落ブランド構築に向けた共創プロセスを促進します。

最終的には、今後の中長期計画へつなげる継続的な協働体制を整えていくことを目指します。

実施団体：株式会社 JTB